立石義雄名誉会頭のご逝去について

突然の訃報に接し、言葉で言い表すことができません。３月に開催した議員総会後の記者会見にて、晴れやかな笑顔で会頭交代を発表いただき、今月から私が会頭職を引き継いだ矢先の悲報であり、事態の急変に大変驚いております。今は永年京都経済界を支え、牽引してこられた重鎮を失い、深い悲しみに包まれています。

社業では、社長時代に立石電機からオムロンへの社名変更を決断され、オートメーションやセンシング技術を核に多角化を推進するなど、現在のグローバル企業への成長を主導されました。企業理念に掲げてこられた「企業の公器性」を重視した経営を実践するとともに、ソーシャルニーズの創造への挑戦を通じてよりよい社会づくりに貢献されるなど、そのご功績は計り知れません。

本所では、平成１０年から副会頭を９年間務められた後、当時の村田会頭（現名誉会頭）からの後継指名を受けて、平成１９年から本年３月まで、第１６代会頭として約１３年にわたり京都の発展に寄与されました。会頭就任以来、地域経済の発展を実現するためには、中小企業の活性化が不可欠であるという信念のもと、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に掲げるビジョンを策定し、知恵ビジネスを多様な産業群として集積させる取り組みを進めてこられました。

とりわけ、昨年３月に、経済界の悲願であった京都経済センターのオープンを実現できたことは、立石名誉会頭の輝かしい功績であり、そのリーダーシップとオール京都の連携の中心を担ってこられた手腕に深く敬意を表します。

常々仰っていた「人の幸せをわが喜びとする」という信条を実直に実践され、京都のため、そして京都で働き、学び、暮らす人々の幸せのために身を捧げてこられました。分け隔てなく温かく人に接し、全力で対応される、そのお姿に多くの皆様が敬愛の念を抱いておりました。

名誉会頭、そして（一社）京都知恵産業創造の森の理事長として、大所高所から引き続きご助言を頂戴したいと思っておりましたのに、もはやそのお考えやお人柄に触れることは叶わず、無念でなりません。

残された私たちは、立石名誉会頭の数多のご功績をしっかりと引き継ぎ、未来の京都を担う知恵産業の創造に向けて、微力ではありますが、一致団結してオール京都で取り組むことを誓い申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

以上

令和２年４月２１日

京都商工会議所

会頭　塚本 能交